

こんにちは。新しい学期が始まりましたね！

今年度最初のひみつの本棚はイギリスで昔から読み継がれている絵本を2冊ご紹介します。同じ作者の同時代に絵本ですが、1冊は1982年に既に日本の子どもたちにも紹介され愛されてきました。そしてもう1冊が今年日本で翻訳出版されました。この新しい1冊も日本の子どもたちに今後愛され続けていくことでしょう。

『かしこいビル』

ウィリアム・ニコルソン／さく まつおか きょうこ よしだ しんいち／やく
ペンギン社 1982年 1050円 絵本

＜お勧め年齢＞

幼稚園★★★ 小低学年★★☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

＜本の紹介＞

あるひ おばさんの いえに いくことになった メリー。おとうさんからもらった
トランクに おきにいりの おもちや てぶくろや くつや ふえや ブラシを
つめていきます。けれど うっかり いちばんだいじなおにんぎょうのビルを いれ
わすれてしまったのです！でも かしこいビルは メリーを おいかけて はしりま
す。はしって はしって ついに えきで メリーに おいついたのです。

『ふたごのかいぞく』

ウィリアム・ニコルソン／さく 谷川 俊太郎／やく 復刊ドットコム 2010年
1680円 絵本

＜お勧め年齢＞

幼稚園★★★ 小低学年★★☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

＜本の紹介＞

メリーは うみべで ちいさなふたりのかいぞくを ひろいました。そこで メリー
は かいぞくたちを おふろにいれて ごはんをたべさせ いろいろなことおしえ
ました。けれども かいぞくたちは いたずらばかり。ついには ボートをぬすんで
ひろいうみへ。でも かいぞくたちは メリーのことは わすれずに いつも おた
んじょうびには かえってきたのです。

＜子どもに手渡すときのポイント＞

どちらの絵本もイギリスの有名な画家、ウィリアム・ニコルソンが子どものために描
いた絵本です。同じメリーが主人公ですが続編というわけではないようです。ストー

リーはとても簡単ですが、どちらの絵本も絵が見事に物語を伝えていて、絵が主役である絵本のお手本ともいえるでしょう。これらの絵本は子どもたちに愛され続けてきただけでなく、後の絵本作家にも大きな影響を与えたと言われています。ちょっとみただけでは地味に見えるかもしれませんが、絵本とはなにかを私たちに教えてくれる作品です。ぜひ、お子さんとよまれる時は絵を充分楽しみながらゆっくりとした時間の中でよんでみてください。

また、作者や作品について詳しく知りたい方は、各絵本の最後の解説まで読まれるとよいかと思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館 重村 さやか